

平成20年度 第10回 保見地域会議 会議録

日時：平成20年11月21日（金） 19：00～21：00

場所：保見交流館 中会議室

出席者：地域会議委員：14名

会長 鈴木 進

副会長 井原邦和

委員 浅井雅之 井原高俊 粕谷 修 木下優嘉

篠田 修 西村靖彦 平野鋒芳 藤原敏範

正木恒男 松井隆哉 水嶋清行 山田英次

猿投支所 今井 鉦 篠田 博 成田和伸

傍聴人：なし

次第

1 地域会議会長あいさつ

2 協議1 地域自治システム（地域予算提案事業の具体例）について

3 協議2 保見地域のまちづくりを考えるアンケート結果について
（集計結果最終版について）

4 情報交換 保見交流館ふれあいまつりについて

5 事務連絡 来年度の定例地域会議、わくわく事業プレゼンについて

議事等（要約）

協議1 地域自治システムについて

事務局

- ・「地域予算提案事業（地域自治システム）の具体例」（資料）をもとに、「歴史・伝統文化等保存事業」をはじめ4事業を抽出し、課題の選定理由などを説明。

- ・「（仮称）保見ヶ丘地区多文化共生交流事業」について、まとめ直した事業概要書にて説明し、事務局から再提案した。

委員

- ・自治区の運営は、どの自治区も厳しいものがあり、特に外国人に対する情報の伝達は難しい。また、外国人が自治区の行事等の企画に参加することは無かった。

委員

- ・当事者（保見ヶ丘）として、問題が沢山あるが、どこに誰が住んでいるかわからない、連絡網が無い（出来ない）定住・永住よりも出稼ぎが多い、この3点が外国人に係る大きな問題である。

委員

- ・私の自治区では、50人くらいが企業の協力により、区民となっているが、外国人の中でキーパーソンになる人材が必要だ。

委員

- ・中学生など子供をイベントに参加させたらどうか。子供が参加すれば、その親も参加が見込まれる。

委員

- ・四国・松山市に視察に行ったことがある。そこでは外国人の子供の教育から始まって親に繋がる生活習慣指導の実態を見てきた。

委員

- ・学校の父兄参観日には、外国人の親も来ている。この参観日を有効に活用し、PRしていったらどうか。

- 委員
- ・ 地域会議が地域との関わりで、学校などに積極的に出向くこと、前向きに活動することが重要だ。

**協議 2 保見地域のまちづくりを考えるアンケート結果について
(集計結果最終版について)**

- 事務局
- ・ 「保見らしいまちづくりを考えるアンケート調査(報告書)」の製本前の資料にて説明。回収率は約50%。
保見4自治区に限っては、外国人の方は別集計をしている。「外国人と日本人との共生について」47ページから52ページまで報告されている。

情報交換 保見交流館ふれあいまつりについて

- 委員
- ・ 自家用車で家族と参加したが、遠くの駐車場に車をおいた。後でシャトルバスがあったことがわかったが、PRされていたか。
- 委員
- ・ 実行委員会に参加をしていたが、自治区回覧等でPRした。
- 委員
事務局
- ・ 地域バスの臨時運行は考えられないか。
 - ・ バスの時刻表に臨時運行を加えるのは、中部陸運局等への手続きが煩雑であり、難しい。
- 委員
- ・ やはりシャトルバスが有効になる。PRの方法を検討すべき問題として、申し送りたい。

事務連絡 (1) 来年度の地域会議について

- 1) 定例会議 毎月第3週の金曜日
- 2) わくわく事業第1次募集プレゼン
平成21年5月9日(土)午後2時~
PRは、2月1日から予定する。

(2) 次回の地域会議

日時：12月19日(金)午後7時から。
場所：保見交流館 中会議室
内容：保見地域まちづくり(地域課題)について